

令和7年度 五十市小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立五十市小学校		校長名	堀之内 伸浩	
学級数	31学級	児童生徒数	758名	職員数	56名
教育目標	児童一人一人に愛情をもって大切に育てることを基本理念として、学校・家庭・地域の連携協力を基盤とした「チーム五十市」の組織力を高めることにより、笑顔あふれる五小っ子の学舎を創造する。				

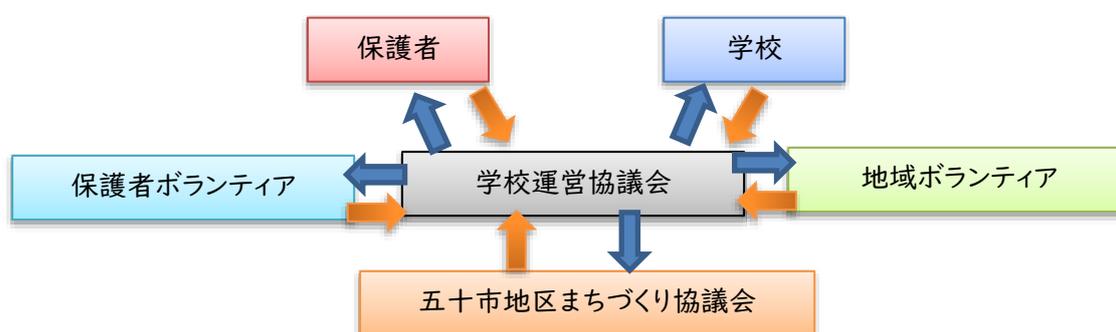
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計3名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	元五十市地区まちづくり協議会会長	明利 克	会長
	2	鷹尾5丁目自治公民館館長	西川 英男	副会長
	3	中尾自治公民館館長	尾藤 正武	
	4	主任児童委員	大橋 あゆみ	
	5	民生委員・児童委員会会長	福丸 良秋	
	6	さつき児童クラブ施設長	瀬口 信一	
	7	元PTA会長	湯浅 大介	
	8	PTA会長	村川 真矢	

事務局	役職	氏名
	校長	堀之内 伸浩
	教頭	中井上 健
	教頭	下野 雅代

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	学校運営協議会委員選出
6月3日	第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明、質疑）
6月9日	田植えにおける支援ボランティア
7月30日	民生委員・児童委員の方々との連絡会
7月31日	第2回五十市中校区3校合同学校運営協議会（各学校活動状況報告、中学校区のよさや課題についての熟議）
10月3日	稲刈りにおける支援ボランティア
10月8日	第3回学校運営協議会（授業参観、学校の活動状況報告について協議、学校評価についての説明）
11月13日	町探検における支援ボランティア
12月18日	第4回学校運営協議会（授業参観、学校評価報告書について協議）
2月9日	第5回学校運営協議会（授業参観、学校評価と改善事項の協議、次年度の方向性と学校行事の説明）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「五十市中学校区におけるよさや課題について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 地域連携による体験活動の充実（5年：総合的な学習の時間「米作り」）
学校運営協議会において「子供たちに郷土愛と勤労の尊さを学ばせてほしい」との意見を受け、地域ボランティアの「ふるさとの会」が中心となり活動を支援。同会が地域の人材確保と進行管理を一括してコーディネートしたことで、田植えから稲刈り、脱穀、しめ縄作りまでの一連の体験を円滑に実施することができた。



【稲刈り】

- 安全な校外学習の基盤づくり（2年：生活科「町たんけん」）
「児童の安全確保と、地域への理解を深める機会を増やしてほしい」という委員の提言に基づき、学年主任と学校運営委員2名が中心となって外部との連絡調整を分担。公民館長、民生委員、保護者ボランティア等の協力を得て、各班への同行や交差点での立番指導を実現した。地域が主体となって安全管理をサポートすることで、教員が児童の学習評価や個別の指導に注力できる体制が整った。



【店での見守り】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 地域での児童のあいさつを一部の児童だけでなく全体的によくしたいとの意見が出た。そこで、SWPBSの流れを意識した「いちハピ」（1秒で、一瞬で、一緒に、相手も自分もハッピーになるあいさつや言動）運動を展開した。児童の挨拶や思いやりのある言動の広がりが、校内だけでなく家庭や地域にも見られるようになった。



【よさを伝える情報番組】

(3) 地域貢献活動

- 地域の行事に多くの子どもたちが参加してほしいとの要望があった。そこで、地域の行事情報を学校側から保護者や子どもたちへ積極的に発信した。まちづくり協議会主催の子ども料理教室や歩こう会へは、多くの児童が参加し、地域の方々との交流を楽しむことができた。また、「イルミ&アートフェスタ」に向けて6年生がパネルに絵を描くなど地域の活性化に貢献している。



【歩こう会】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域ボランティアが教育活動に参加する機会が増えており、充実した体験活動が実施できた。そのため、児童の郷土への愛情や地域貢献への意欲の高まりが見られる。
- 児童の地域貢献意欲に対し保護者の意識に差が見られるため、活動内容や公民館行事等の情報共有を強化し、家庭の理解と参画を促す必要がある。

7 次年度の方向性

- 保護者や地域との連携を基盤に、学習活動への協力、登下校の見守り、読み聞かせ等の学校支援体制をさらに充実させる。
- 地域と一体となって学びの質向上と安全確保に努めるとともに、学校運営の情報を積極的に発信し、家庭・地域の理解と参画をより一層深める教育課程を推進する。